

令和4年度 新川みどり野高校 年間指導計画(シラバス)

学科	教科	科目(講座名)	対象学年	単位数	教科書	使用教材
普通科・福祉教養科	地理	地理総合	全	2	わたしたちの地理総合 世界から日本へ(二宮書店)	新編フォトグラフィア地図図説2022(とうほう) わたしたちの地理総合ワークブック(二宮書店)
<p>学習の到達目標</p> <p>・地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解する。また、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>・地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>・地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそって見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度やとともに、多面的・多角的に考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。</p>						
学期	月	単元	学習内容		到達度目標(学習のねらい)	
前期	4月	1章 地図とGISの活用 1節 地球上の世界	・地球上の位置・方位・距離		・現代世界の地域構成を示した様々な地図の読図を基に、方位や時差について理解すること。	
		1.2 地球上での生活①② 3 世界地図でとらえる地球	・さまざまな図法で描かれた世界地図 ・時差の仕組み		・地図や地理情報システムについて、位置や範囲、縮尺などに着目して、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現すること。	
	5月	2節 国家の領域と領土問題 1 国家の領域と海洋の役割	・国家の3要素や国境のなりたち		・現代世界の地域構成を示した様々な地図の読図を基に、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きなどについて理解すること。	
		2 日本と周辺諸国との間の権有権問題	・日本と周辺諸国との間の権有権問題			
	6月	3節 国内や国家間の結びつき 1 国家をこえた結びつき 2 観光による結びつき 3 交通・通信による結びつき 4 貿易・物流による結びつき	・日本と世界の結びつき ・観光客が集まるところ ・交通と通信の発達 ・物質の移動		・現代世界の地域構成について、位置や範囲などに着目して、主題を設定し、世界的視野から見た日本の位置、国内や国家間の結び付きを多面的・多角的に考察し、表現すること。	
		4節 日常生活のさまざまな地図 1 身の回りにおけるさまざまな地図 2 地理情報システムのみくみと使い方	・地図を用いた情報伝達 ・電子地形図の活用		・日常生活の中で見られる様々な地図の読図などを基に、地図や地理情報システムの役割や有用性について理解すること。	
	7月	2章 生活文化の多様性と国際理解 1節 自然環境と生活文化 1 地球上の地形のなりたち 2.3 山地と平野/海岸部の生活 4 地球上の気候の地域性 5 暑い気候に対応した生活 6 乾燥した気候に対応した生活 7 季節の違に対応した生活 8 寒冷な気候に対応した生活	・地球上の起伏の分布とプレートテクトニクス ・河川がつくる地形や海岸部の地形と暮らし ・大気の循環と気候の地域性 ・熱帯(アフリカ)の自然環境と人々の暮らしと工夫 ・乾燥帯(サウジアラビア・モンゴル)の自然環境と人々の暮らしと工夫 ・温帯(大陸の西岸と東岸)の自然環境と人々の暮らしと工夫 ・寒帯(シベリア)の自然環境と人々の暮らしと工夫		・世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活が地形や気候などの地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解すること。	
		2節 産業の発展と生活文化 1 農業の地域性 2 農業と生活文化 3 工業の地域性 4.5 経済成長による生活の変化①② 6.7 工業化による生活の変化①②	・世界の農業地域 ・南アジアの農業 ・工業の発展と世界の工業地域 ・中国の工業化と課題 ・東南アジア(タイ・ベトナム)の工業化と課題		・世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴(産業や貿易)や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現すること。	
	9月	3節 言語・宗教と生活文化 1 世界の言語 2 世界の宗教 3 仏教圏の生活文化 4 キリスト教圏の生活文化 5.6 イスラム圏の生活文化①② 7 世界の多民族・多文化社会 8 さまざまな社会の形成と生活文化 9 多文化社会の実現と生活文化	・世界の言語の種類と分布 ・世界の宗教の特徴と分布、生活文化との関係 ・仏教の伝播と生活とのかかわり ・キリスト教の広がりや生活とのかかわり ・イスラム圏の分布とムスリムの生活 ・多文化共生社会 ・ラテンアメリカの民族とその暮らし ・オーストラリアの多文化主義		・世界の人々の特色ある生活文化を基に、言語・宗教など自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解すること。	
	10月	4節 グローバル化の進展と生活文化 1-3 地域統合による生活文化の変化①②③ 4-6 グローバル化による成長と課題①②③	・EUの統合による産業や生活文化への影響と諸課題 ・ヨーロッパの各国の国家としての在り方の変容、EUと日本とのつながり ・アメリカ合衆国建國時から多様性を育んできた地理的環境・歴史的背景 ・グローバル社会で世界をリードする産業の発展と企業の国際化 ・アメリカ合衆国の変容、日本とのつながり		・世界の人々の生活文化について、グローバル化の進展にもとまって、その生活文化にどのような変化があるか社会的条件との関わりに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現すること。	
11月	3章 地球的課題と国際協力 1節 人口・食料問題 1 世界の人口問題 2 人口が増加した国の課題 3 人口が停滞する国の課題 4 世界の食料問題 5 人口増加と食料問題	・世界の人口増加の推移と地域別人口の推移 ・人口の変化と社会・経済状況との関係 中国とインド ・人口大国の課題と人口停滞・減少の原因 スウェーデンと日本 ・世界の食料需給 ・アフリカの食料不足と国際協力		・世界各地で見られる地球的課題の内、人口問題、食糧問題について、その社会的背景や課題相互の関連性などについて大観し理解する。		
	2節 居住・都市問題 1 世界の居住・都市問題 2 大都市の地域性と課題 3 人口が密集する都市の課題	・都市に人口が集中する要因 ・大都市の地域性と課題 ・人口が密集する都市の課題 メキシコシティ・ジャカルタ		・世界各地で見られる地球的課題の内、居住・都市問題について、人口・食料問題との関連性などについて大観し理解する。 ・地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取組や国際協力を具体例を基に多面的・多角的に考察し、表現すること。		
12月	3節 資源・エネルギー問題 1 世界の資源・エネルギー 2 エネルギー資源の生産・消費と課題 3 再生可能なエネルギーへの移行 4 鉱産資源の産出と消費	・エネルギー資源の動向 ・資源の偏在性、有限性と消費における地域格差 ・これからのエネルギーのあり方 ・資源をもつ国、もたない国 ロシア・オーストラリア・日本		・世界各地で見られる地球的課題の内、地球環境問題、資源・エネルギー問題について、資源の偏在性、有限性について理解するとともに、再生可能なエネルギーへの移行など持続可能な社会の実現に向けた新技術の開発などこれからのエネルギーのあり方について多面的・多角的に考察し、表現する。		
	4節 地球環境問題 1 地球温暖化の現状と将来 2 熱帯林の減少 3 砂漠化の進行	・地球温暖化が与える影響 ・熱帯林の減少の原因 アマゾン・東南アジア ・砂漠化の要因 アラル海		・地球環境問題の具体的な事例を基に、人口問題、食糧問題、資源エネルギー問題、都市・居住問題などの地球的課題が相互に関連し合っていることを理解すること。		
1月	4章 生活圏の諸課題 1節 自然環境と防災 1 日本の地形・気候と生活 2-4 風水害と防災/火山の噴火と防災/地震・津波と防災	・日本の自然環境の特徴 ・自然災害に備える		わが国をはじめ、世界で見られる自然災害や生徒の生活圏で見られる自然災害を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解すること。		
	5 都市型災害と防災 6 防災・減災への心構え	・都市災害に備える ・災害時に備えるタイムライン				
2月	2節 持続可能な地域づくり 1 地域調査の実施手順と方法 2-4 地域調査①②③	・地域の課題をみつけ、調べる 軽井沢 ・調査テーマの設定と事前調査		・生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取組や探究する手法などについて理解すること。 ・生活圏の地理的な課題について、生活圏内や生活圏外との結び付き、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、課題解決に求められる取組などを多面的・多角的に考察・構想し、表現すること。		

令和4年度 新川みどり野高校 年間指導計画(シラバス)

学科	教科	科目(講座名)	対象学年	単位数	教科書	使用教材	
普通科・福祉教養科	地歴	歴史総合	全	2	明解 歴史総合C(帝国書院)	明解歴史総合図説シノニア(帝国書院) 明解歴史総合ノート(帝国書院)	
<p>学習の到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会の地域的特色と日本及び世界の展開に関して理解している。</li> <li>・近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察することができる。</li> <li>・見通しをもって学習に取り組もうとし、問いを繰り返して洗練させていくなど、粘り強く取り組もうとしている。</li> </ul>							
学期	月	単元	学習内容		到達度目標		
前期	4月	1部 歴史の扉 1章 歴史と私たち			絵画・資料・数値など歴史における史資料の重要性と、その正しい読み解き方について理解している。		
		2章 歴史の特質と資料	1節 資料を取り扱ってみよう 2節 歴史叙述とは何か考えてみよう。	近代化に関わる史資料を読み解く技能を身に付けている。			
		2部 近代化と私たち 序章 近代化への問い			近代化に関わる史資料を読み解く技能を身に付けている。		
		1章 江戸時代の日本と結び付く世界	1 アジアのなかの江戸幕府 2 成熟する江戸社会 3 清の繁栄と結び付く東アジア 4 アジア・アメリカに向かうヨーロッパ	18世紀のアジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易と、日本への影響について理解している。「大航海時代」から「世界の一体化」へ至る交易の意義と地域の変容について考察し、自分の言葉で表現している。			
	5月	2章 欧米諸国における近代化	1 イギリスの革命とアメリカの独立 2 フランス革命～ヨーロッパ近代の幕開け～ 3 フランス革命の影響と国民意識の芽生え 4 産業革命で変わる社会 5 イギリスの繁栄と国際分業制	市民社会と国民国家の形成、資本主義社会と国際分業体制確立の経緯を理解している。市民革命および産業革命の経緯などから、諸改革の意義と現在社会との関わりを考察し、自分の言葉で表現している。			
		3章 近代化の進展と国民国家の形成	1 1848年～近代ヨーロッパの転換点 2 イタリア・ドイツの統一とロシアの近代化 3 アメリカの拡大と第2次産業革命 4 帝国主義と世界の一体化	国民国家の展開と帝国主義による世界分割や移民の状況を理解している。国民国家の形成・発展による対外戦争や差別・抑圧、帝国主義が人類に与えた変化について考察し、自分の言葉で表現している。			
	6月	4章 アジア諸国動揺と日本の開国	1 「西洋の衝撃」と西アジアの変化 2 南・東南アジアの植民地化 3 ヨーロッパの日本接近とアヘン戦争 4 黒船の来航と日本の対応 5 新体制の模索と江戸幕府の滅亡	欧米諸国の進出によるアジア諸国の変容について理解している。アジア諸国の変容を比較したり関連付けたりして考察し、「西洋の衝撃」の歴史的意義について自分の言葉で表現している。			
		5章 近代化が進む日本と東アジア	1 新政府の誕生 2 近代国家を目指す日本 3 日本と清の近代化と日清戦争 4 列強の中国進出と日露戦争 5 日露戦争が与えた影響	明治維新とその後の日本の変化やアジア諸国の変容について理解している。明治維新の歴史的な意義について、現代の日本への影響と関連付けて考察し、自分の言葉で表現している。			
	9月						
	後期	10月	3部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 序章 国際秩序の変化や大衆化への問い			国際秩序の変化や大衆化に関わる史資料を読み解く技能を身に付けている。資料から得た情報と知識を統合し、国際秩序の変化や大衆化を読み解く問いを表現している。	
			1章 第一世界大戦と日本の対応	1 ドイツの挑発とバルカン半島の緊張 2 総力戦となった第一次世界大戦 3 ロシアの革命と大戦の終結	国際関係の視点を軸に、第一次世界大戦勃発から終戦までの経緯と、参戦各国の社会の変化について理解している。第一次世界大戦の総力戦体制下において、列強の戦闘員・列強の非戦闘員・植民地や従属地域の人々がそれぞれどのような目的で戦争に協力したのかを考察し、自分の言葉で表現している。		
			2章 国際協調と大衆社会の広がり	1 ヴェルサイユ体制の成立 2 東アジアの民族自決の行方 3 中東・インドの民族自決の影響 4 ヨーロッパの復興と大衆の政治参加 5 大衆社会の出現とアメリカの繁栄 6 日本における大衆社会の形成	ヴェルサイユ体制によって形成された国際秩序と、国際社会や各国に生じた政治・社会・文化の変化を理解している。新しい国際秩序と大衆社会の特徴について考察し、自分の言葉で表現している。		
11月		3章 日本の行方と第二次世界大戦	1 世界恐慌が与えた影響 2 ファシズムの台頭と拡大 3 政党政治の断絶と満州事変 4 日中戦争のはじまり 5 第二次世界大戦の展開 6 戦局の悪化と被害の拡大 7 第二次世界大戦の終結とその惨禍	世界恐慌から第二次世界大戦の終戦に至るまでの経緯について、大衆とマスメディアの関わりに着目しながら理解している。ファシズム体制の形成から終戦に至るまで、ドイツや日本で大衆がなぜ戦争に協力していったのかを考察し、自分の言葉で表現している。			
		4章 再出発する世界と日本	1 戦後の新たな国際秩序 2 冷戦の始まり 3 日本撤退後の東アジア 4 日本の改革と独立の回復	冷戦および冷戦構造の形成と、国連を中心とする平和へ向けた新たな国際秩序について、日本と関連付けながら理解している。国際連合を中心に、第二次世界大戦以前と以後の国際関係を比較することで、戦争の経験が人々に何をもたらしたのかを考察し、自分の言葉で表現している。			
1月		4部 グローバル化と私たち 序章 グローバル化への問い			グローバル化に関わる史資料を読み解く技能を身に付けている。資料から得た情報と、中学校までの学習で得た知識を総合し、グローバル化を読み解く問いを表現している。		
		1章 冷戦で揺れる世界と日本	1 アメリカ・ソ連の緊張と緩和 2 冷戦下における日本の復興 3 第三勢力の形成と脱植民地化 4 中東戦争とパレスチナ問題	55年体制の形成から高度経済成長に至る日本の動きを、冷戦下の国際情勢を踏まえながらその中に位置づけて理解している。冷戦下の日本と世界の動向について、政治・経済の関連や諸地域間の比較を通して多面的に考察し、自分の言葉で表現している。			
		2章 多極化する世界	1 揺らぐアメリカと先進各国の変化 2 「経済大国」日本の模索 3 経済発展に取り組むアジア・南米諸国 4 イスラームの復興と冷戦への影響	1960年代から80年代を中心に、冷戦下における各国の選択と経済成長について理解している。各国の選択を比較し、「東アジアの奇跡」が起こった要因や世界史における意義について考察し、自分の言葉で表現している。			
2月		3章 グローバル化のなかの世界と日本	1 冷戦の終結と変わる世界構造 2 冷戦の終結が与えた世界への影響 3 超大国アメリカと中東情勢 4 国際環境の変化と日本 5 グローバル化による国際社会の変容	冷戦終結の過程とグローバル化の特質について理解している。グローバル化の進展や地域統合、ナショナリズムの強化について各地域を比較して考察し、その特質や問題点を自分の言葉で表現している。			